

その2. 中国の旅のこと

6月の初めに中国に行ってきました。今回は西安、1昨年の上海、昨年の北京につづいて。中国は3度目となります。旅行嫌いの「農耕民族」系の私が、旅行好きの「騎馬民族」系の女房にせがまれて、しぶしぶ出かけて行った旅行、というのが真相ですが・・・。

行ってみると西安の街は、興味深い遺跡はあり、中華料理もおいしく、いい旅でしたよ。ただ、ひどく暑かったですね。中国の内陸部ということで湿気はないのですが、気温は相当に高いですね。38度くらいはあったのではないかと、思います。

西安のメインは、言うまでもなく兵馬俑と城壁ですが、どちらも日本の遺跡とは一ケタ違う、スケールの大きさに圧倒されますね。特に兵馬俑などは、あれでまだまだ発掘の途中だというんだから驚きます。巨大な体育館のような建物で遺跡をこっぴどりと覆って、じっくりと長期計画で、発掘作業を進めているようです。中国政府が、お金に糸目をつけず、国家事業として本気で取り組んでいる、という印象をうけましたよ。遺跡の発掘というのは、単なる観光事業ではなく、国家の威信をかけて取り組むべき事業である、ということでしょう。中国ってすごい国ですねえ。



西安は昔の長安ということで、日本の京都のような「古都」のイメージを抱いていましたが、予想外に近代化されていました。人口800万人の大都市で、人も車も高層ビルも多く、北京や上海と変わりませんよ。私としては、もっとひなびた中国の田舎の風景を期待していたのですが、そんなものは全くお目にかかれませんでしたね。定められたコースを見るだけの観光ツアーの限界かもしれませんが・・・。この次にはシルクロードの旅の奥の方、敦煌あたりに行ってラクダにのってみたいね、と妻と話しています。

広島から上海経由で西安に入ったのですが、上海の乗り換えでトラブル、機内に入って、待てど暮らせど、いつまでたっても飛ばないのです。2時間たち、3時間たち、機内放送はあるものの、中国語はわけがわからず、まわりは携帯電話と話し声でざわめいてきました。乗務員に抗議をしている連中もいるものの、言葉のわからぬこちらはじっと待ちつづけるのみ。結局は予定時間から5時間の遅れで飛び立ちました。西安に着いて、現地ガイド氏に飛行機の遅れの原因を聞いて、驚きました。なんと、軍隊の演習のためだというんですよ。軍事演習のためには、民間機が5時間飛べなくてもやむをえない、という論理ですね。中国ってすごい国ですね。日本の常識でこの国を判断してはいけない、と思いましたね。

今回も例によって、観光の合間に「土産店」に連れて行かれたのですが、「絨毯店」でも「宝石店」でも中国人の販売員の「押し売りトーク」には閉口しました。一度や二度断ったくらいでは、あきらめませんね。こちらには全くその気はないのに、ずーと引っ付いてくるんですよ。彼らの辞書に

は「あきらめる」という言葉はないのでしょうか。あの「しつこさ」と「粘り強さ」一改めて中国人はすごいなあ、と思いますよ。

北京や上海でも感じたことですが、中国人の交通マナーは最悪ですね。4日間滞在している間に4件の事故現場を見ましたが、ルール無視のあんな運転をしたら事故が起こるのが当たり前です。どちらが優先というルールがなくて、とにかく先に前に出た方が勝ち、という世界ですからね。自転車も、リヤカーも、歩行者さえも、どんなに車が行き交っていようと、平気で道路の真ん中に出てきますからね。日本人には信じられない風景ですよ。中国人の現地ガイドさえ、「中国で車を運転するために必要なものは、ただ一つ。それは勇気です」と言うくらいですからね。

領土問題でも、日本にあんな無茶苦茶な主張をしてくるのは、「強引な押し売り」と「ルールを守らない」国民性に起因しているのでしょうか。日本人の考える「常識」は、中国人にとっては「非常識」ということになるのでしょうか。実に付き合いにくい「困った隣人」であっても、ある意味では、実にしたたかで、器の大きい民族なのかもしれません。それでなくては、紀元前から続くあれほどの長大な歴史と、万里の長城、故宮博物院、兵馬俑などの巨大な歴史遺産を所有できるはずがない、と思うのです。

中国を旅行していて、日本人の常識では理解しがたい風景に接することは多いですね。その一つが、犬の飼い方ですね。観光地、広場、路地裏、いたるところで中国の犬を見ることは多いのですが、彼らは鎖につながれていないのですよ。人通りの少ない田舎ならいざしらず、大都会の街の中の風景ですよ。日本では考えられないことです。大きな犬も小さな犬も、自由に道路を歩き、日陰で休み、飼い主の側を離れないのです。鎖につないで散歩をし、きちんと糞の処理もしないといけない日本と、だいぶ勝手が違いますね。「鎖」という規則に縛られないことで、中国の犬たちは、日本の犬たちよりも、悠々と幸福に生きているように私には見えましたよ。



よその国を知ろう思うたら、とにかくそこへ行ってみるんが一番よ。誤解しとることも、えっとあるけえのう。

(2011・7・6)